

小集会プログラム

3月27日(金) 17:30~19:00

W01 : A会場 : 第45回ハダニ談話会

世話人 : 岸本英成・後藤哲雄

- W011 須藤 正彬 (農環研)
「植物ダニにおける葉の上下面の使い分けとその生態学的意義」
- W021 松田 朋子 (茨城大・農・応動昆)
「DNA塩基配列に基づくハダニ類の種の識別と系統関係の推定」

W02 : B会場 : 深化する化学生態学 : 情報化学物質と害虫防除の過去・現在・未来

世話人 : 上原拓也・大村 尚・小野 肇・小野正人・
今野浩太郎・櫻井健志・外山晶敏・中 秀司・藤井 毅・森 直樹

- W021 本田 洋 (筑波大生命環境)
「モモゴマとともに27年-バイオシステムティクスと化学生態学」
- W022 安藤 哲 (農工大BASE)
「フェロモンの生合成はまだまだおもしろい」
- W023 西田 律夫 (京都大院農)
「昆虫と植物をつなぐ化学因子 : 害虫ミバエ類の誘引戦略を中心として」

W03 : C会場 : 害虫・雑草管理における景観生態学的アプローチ

世話人 : 田淵 研

- W031 ○田淵 研¹・滝 久智²(農研機構東北農研¹・森林総研²)
「趣旨説明 : 害虫・雑草管理における景観生態学的アプローチ」
- W032 仲島 義貴 (京大・生態研センター)
「土地利用情報に基づく環境診断 : 害虫と天敵のモニタリング技術への応用」
- W033 ○馬場 友希・田中 幸一 (独) 農環研)
「農地景観が土着天敵類におよぼす影響 : 多様な結果から次の一手を探る」
- W034 市原 実 (静岡農林研)
「水田の種子食昆虫による雑草抑制機能 : 圃場周辺環境の重要性」

W04 : E会場 : 新規生物農薬アカメガシワクダアザミウマの効果的な利用法 -イチゴ
におけるアザミウマ防除の事例紹介 -

世話人 : 森光太郎

- W041 大朝 真喜子 (石原産業・中央研究所)
「新規生物農薬アカメガシワクダアザミウマの開発と生物学的特性」
- W042 ○松崎 正典・中野 昭雄・秋月 学・松尾 和典 (徳島農総技セ)
「冬春・夏秋イチゴ栽培でのアカメガシワクダアザミウマの利用に向けて
(徳島県)」
- W043 ○藤田 一平¹・安井 行雄¹・渡邊 丈夫² (香川大・農・昆虫¹・香川農試²)
「イチゴ栽培でのアカメガシワクダアザミウマと乱反射資材併用衝立式ネ
ットを利用した春のアザミウマ類侵入量急増時の防除対策(香川県)」
- W044 新藤 潤一 (青森産技セ・野菜研)
「夏秋イチゴ栽培におけるアカメガシワクダアザミウマの利用法」

- W045 ○安達 鉄矢¹・下元 満喜¹・大朝 真喜子²・竹村 浩一郎³・中山 俊弘⁴
(高知農技セ¹・石原産業中央研究所²・高知須崎農振セ³・高知須崎農振セ高南農改⁴)
「冬春イチゴ栽培でのアカメガシワクダアザミウマの利用法 (高知県)」

W05 : F 会場 : 国立環境研究所侵入生物研究チームにおける実践生態学の歩み

世話人：笠井敦・坂本佳子

- W051 五箇 公一 (国立環境研)
「研究者として世の役に立つ～応用科学を目指す若き研究者へのメッセージ」
- W052 土田 浩治 (岐阜大応用生物)
「平取町から始まった侵入生物とのお付き合い：マルハナバチプロジェクトの思い出」
- W053 柏田 祥策 (東洋大)
「化学物質生態リスク評価の展望」
- W054 立田 晴記 (琉球大・農)
「クワガタと環境研と私」
- W055 辻 和希 (琉球大学・農)
「応用生態学研究への期待」

W06 : G 会場 : 複合共生系をひも解く

世話人：菊池義智・藤原亜希子

- W061 ○藤原 亜希子^{1,2}・倉田 歩³・前田 太郎⁴・重信 秀治⁴・孟 憲英⁵・鎌形 洋一⁵・土'田 努¹ (富山大・先端¹・日本学術振興会 PD²・富山大院・理工³・基生研・生物機能⁴・産総研・生物プロセス⁵)
「ひと味違う！？ タバココナジラミにおけるユニークな複合共生システム」
- W062 古賀 隆一 (産総研・生物プロセス)
「アワフキムシの細胞内共生系」
- W063 東樹 宏和 (京大・人環)
「次世代シーケンスデータで相互作用ネットワークを描く」

W07 : H 会場 : 殺虫剤作用機構談話会

世話人：園田昌司・山本敦司・水口智江可

- W071 ○岡崎 真一郎¹・松浦 明²・土'田 聡³・園田 昌司⁴ (大分農林水産研農業¹・宮崎総農試²・農研機構果樹研究所³・岡山大・植物研⁴)
「大分県の夏秋ピーマンにおけるスピノサド抵抗性ミカンキイロアザミウマとネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態と防除対策の取り組み」
- W072 ○山中 武彦¹・須藤 正彬¹・高橋 大輔¹・鈴木 芳人² (農環研¹・京都市²)
「進化生態学的アプローチから薬剤抵抗性管理を考える」

W08 : I 会場 : 第 21 回日本 ICIPE 協会研究報告会

世話人 : 足達太郎

- W081 中村 達 (国際農研)
「東アフリカにおけるサバクトビバッタの研究 : ICIPE の役割」
- W082 前野 浩太郎 (京都大白眉センター)
「サバクトビバッタの群生相化と大発生」

W09 J 会場 : ゲノムからみた昆虫の複合適応形質の進化

世話人 : 嶋田 透・深津武馬

- W091 松村 洋子 (キール大学・生物学部)
「交尾器の伸長現象 : ハムシ科 (昆虫綱 : 甲虫目) を例に」
- W092 ○森山 実^{1,2}・細川 貴弘³・二河 成男⁴・深津 武馬¹(産総研・生物プロセス¹・学振 PD²・九大・理³・放送大・教養⁴)
「昆虫の植物利用能を変える共生細菌の遺伝子」
- W093 棚橋 薫彦 (産業技術総合研究所・学振 PD)
「実は奥深いクワガタムシと酵母の共生関係～形態、行動、分子からゲノムまで」

W10 : K 会場 : 温故知新・昆虫生態学の先輩から学ぶ (3) 巖俊一先輩と愉快的仲間

世話人 : 安田 弘法

- W101 鈴木 紀之¹・○安田 弘法²・金子 修治³(立正大¹・山形大²・静岡伊豆研セ³)
「温故知新・昆虫生態学の大先輩から学ぶ (3) 巖俊一大先輩と愉快的仲間達」
- W102 大崎 直太 (山形大学)
「巖俊一先生と野外生態学」
- W103 沢田 裕一 (滋賀県大)
「オオニジュウヤホシテントウ群の研究と巖先生の人柄」
- W104 西田 隆義 (滋賀県立大環境科学)
「巖俊一の生態学 : 理論的側面について」
- W105 山田 佳廣 (三重大院・生物資源)
「巖が目指したもの : 野外で密度に対する反応をどのように検出するか」

W11 : L 会場 : アリをめぐる生物種間の相互作用 2015 (JIUSSI 共催)

世話人 : 秋野順治・坂本洋典・萩原康夫

- W111 水野 尊文 (京工織大院)
「真社会性昆虫と関わる昆虫の化学戦術 アリを操るシジミチョウ・ハチを欺くカマキリ」
- W112 林 正幸 (千葉大・応用昆虫)
「アリのアブラムシ認識機構とそれを利用したアブラムシ捕食者の対アリ戦略」

3月28日(土) 14:30~16:00

W12 : A会場 : Morphometrics as a tool for insect shape analysis

世話人 : 立田晴記

- W121 小沼 順二 (Dept. Bio., Toho Univ.)
「Morphometrics and quantitative genetic analyses in the morphology of a snail-feeding carabid beetle」
- W122 ○橋本 佳明¹・遠藤 知二²・市岡 孝朗³・兵藤 不二夫⁴・山崎 健史⁵ (University of Hyogo¹・Kobe college²・Kyoto University³・Okayama University⁴・Tokyo Metropolitan University⁵)
「Through the Looking-Glass: reflection of ant-diversity in ant-mimics」
- W123 高橋 一男 (Okayama University)
「Morphometrics as a tool for insect shape analysis」

W13 : E会場 : ネオニコチノイド農薬の陸域昆虫類に対する影響の評価

世話人 : 中牟田潔・五箇公一

- W131 ○相澤 章仁・野村 昌史・中牟田 潔 (千葉大・院・園芸学)
「陸域昆虫類におけるネオニコチノイド系農薬感受性の種間差」
- W132 ○笠井 敦・林 岳彦・五箇 公一 (国立環境研)
「野生マルハナバチ類に対する残留ネオニコチノイドの影響」
- W133 ○安田 美香¹・坂本 佳子²・滝 久智¹・永光 輝義¹ (森林総研¹・国環研²)
「ニホンミツバチへの農薬の影響」

W14 : G会場 : 光のエントモミメティクス : 構造色と視覚の模倣

世話人 : 高梨琢磨・森直樹

- W141 ○不動寺 浩¹・針山 孝彦²・山濱 由美²・吉岡 伸也³・石井 大佑⁴・木村 賢一⁵・久保 英夫⁶・下村 政嗣⁷・魚津 吉弘⁸ (物質・材料研究機構¹・浜松医科大²・大阪大学³・名古屋工大⁴・北海道教育大⁵・北海道大学⁶・千歳科学技術大学⁷・三菱レイヨン⁸)
「バイオミメティックによる構造色を模倣した人工タマムシ」
- W142 ○弘中 満太郎・針山 孝彦 (浜松医大・生物)
「昆虫の視覚世界を規範とした高性能な害虫誘引・隠蔽技術」

W15 : I会場 : 捕食寄生性昆虫の行動生態学最前線

世話人 : 中村 達・戒能洋一

- W151 Wajnberg Eric (INRA, France)
「Biological control practices in the occidental world: Situation and future developments」
- W152 竹本 裕之 (静岡大・グリーン研)
「環境保全型生物的防除に関わる寄生蜂の探索キューに対する“非”特異的な応答」
- W153 高須賀 圭三 (神戸大・農・昆虫多様性)
「寄生蜂の延長された表現型 ―クモの寄生蜂が寄主クモの造網行動をあやつる」

W16 : J会場 : 大害虫ケブカアカチャコガネがつかない人と研究

世話人 : 永山敦士・安居拓恵

- W161 新垣 則雄 (沖縄農研)
「性フェロモンを利用した交信かく乱法によるケブカアカチャコガネの防除」
- W162 若村 定男 (京都学園大学)
「ケブカアカチャコガネの性フェロモン成分の解明」
- W163 田中 誠二 (農生研)
「ケブカアカチャコガネの休眠と配偶行動」

W17 : L会場 : 害虫発生予察 一時的予測から量的予測に進化するために一

世話人 : 南島 誠・八瀬 順也

- W171 ○武田 藍^{1,2}・安田 美香⁵・安田 哲也³・平江 雅宏³・望月 文昭⁴ (千葉農林総研セ¹・千葉大院園芸²・中央農研³・信越化学⁴・森林総研⁵)
「千葉県におけるアカスジカスミカメ被害解析」
- W172 ○田淵 研¹・奥寺 繁¹・宍戸 貴洋²・高橋 良知³ (農研機構東北農研¹・岩手防除所²・秋田農試³)
「土地利用情報から斑点米カメムシ類の発生量を推定する」